
所報

1. 所員の移動についての報告

1957年、大学院教育学研究科に、理科教育法が専攻分野として組み込まれ、自然科学科の関係教員が教育研究所に所属しました。ICU初の博士号が出たのは、理科教育からであります。この度、理学科はじめ、大学の行政当局の努力が実って、理学科の大学院が設立され、1987年の4月から発足したのは、大変喜ばしいことであります。ただ、理学科の大学院の設立にともない、理科教育は、大学院教育学研究科からはずされることになりました。教育学科と教育学研究科の教員を以て、教育研究所の所員とすることになっていますので、理科教育関係の教員も、1986年度を以て教育研究所の所員では、なくなりました。もちろん、理科教育の問題も教育の問題であり、いろいろな形で、今後とも、協力し合うという点では、変わりがありません。また、新しく4月から、Randolf Thrasher 準教授が、英語教育に加わり、研究所の所員になりました。立川 明準教授が教育哲学に加わり、栗山容子助教授が教育心理学に加わりました。

2. 研究所活動報告

1. 講演会

1986年10月7日、埼玉大学、山口和孝助教授の“平和教育について——教師養成の角度から——”

1986年11月28日、日本人智学協会代表、高橋 巖氏の“シュタイナー教育における教師像”

2. 研究員

Dr. Adefemi S. Sonaike, Ogun State Polytechnic (Nigeria) 教授が招聘教授としてコミュニケーション学講義と研究のため、1986年9月から1986年12月迄。

Dr. Helmut Morsbach, グラスゴー大学心理学教授，“Psychological Aspects of Intercultural Marriage in Japan”の研究のため、1987年1月から1987年4月迄。

研究室活動報告

教育哲学研究室

<人の動き>

研究休暇

川瀬謙一郎教授：1986年4月～87年3月。

讃岐和家教授：1987年9月～88年8月。

<研究活動>

共同研究

「道徳教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究——日・独・米の比較を中心に——」(昭和62年度文部省科学研究費補助金交付一般研究B)：讃岐和家教授を研究代表者として14名の当研究室関係者が参加している(2カ年継続の最終年度)。毎月定例研究会をもった。

1986年3月8～9日、湯河原厚生年金会館(熱海市)にて研究合宿を行なった。発表者とテーマは次の通り。

讃岐和家教授「キリスト教に基づく価値教育の現状と課題」

川瀬謙一郎教授「R. ベラーにおけるアメリカの価値観」

下山田裕彦講師(静岡大学教授)「ペスタロッチの教育思想と教育実践」

立川明準教授「19世紀ニュー・イングランドにおける科学思想と宗教的道徳観」

佐藤尚子助手「日本におけるミッションスクールの設立と発展」

高橋浩助手「ボルノーの道徳教育論における宗教的次元」

山室吉孝助手「エドワーズとデューイの比較」

結城敏也助手「シュタイナーの教育と思想」

吉岡良昌助手「コメニウスにおける神学と教育」

松浦良充助手「『同志社通則』綱領削除事件(1898年)と留岡幸助」

永島孝子院生「プロテスタントとカトリックの子供観に関する一比較考察」

また、1987年7月15日、研究成果報告書論文執筆のための検討会を行なった。

講演会

1986年11月28日：高橋巖氏(日本人智学協会代表)、「シュタイナー教育における教師像」。(教育研究所との共催)

1987年2月16日：山崎純一桜美林大学教授，「旧中国の女性観と女子教育」。

1987年6月8日：上沼八郎奈良教育大学教授，「沖縄——祖国復帰と教育問題——」。
 (教育研究所との共催)

研究会など

1986年9月6～7日：大学院教育哲学研究室秋季研究合宿（修士論文中間発表を中心に）。

1987年2月4日：教育学科教育学専修生卒業論文・大学院教育哲学専修生修士論文発表会。

1987年4月5～6日：大学院教育哲学研究室春季研究合宿（新入生研究発表および修士論文中間発表を中心に）。

1987年8月5～6日：ICU教育セミナー（ICU高校にて。卒業生教員および学部学生・大学院生，ICU教員の計約50名参加）。大口邦雄学務副学長と原一雄教授に講演をお願いした。

なお，当研究室の助手・院生を中心としたICU教育学研究会が，月例で研究会を開催し，活発な研究発表，討論が継続されている。

讃岐和家教授

I 研究活動

1. 1986年度および87年度の両年度にわたる文部省科学研究助成金による一般研究『道徳教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究——日独米の比較を中心に——』に研究代表者として参加し，日本におけるキリスト教教育の研究を行った。
2. 近代日本の哲学の教育思想の研究を行った。
3. 学内の有志教員と共同で「ファカルティ・ディヴェロップメント」の研究を行った。
4. キリスト教学校教育同盟の教師養成事業委員会委員と共同で，キリスト教学校における教師の在り方に関する研究を行った。

II 研究発表等

1. 1986年10月26日，日本デューイ学会第30回大会（於・兵庫教育大学）のシンポジウム「デューイの知識観」において，「教育論の立場からみたデューイの知識観」の発表を行った。
2. 1987年6月6日，一般教育学会第9回大会（於・広島大学）のシンポジウムI「現代大学における一般教育はいかにあるべきか——理念と方法の再検討」を式部久氏（岡山理科大学）とともに司会した。

Ⅲ その他の活動

1. 一般教育学会, 常任理事, 学会誌常任編集委員
2. 文部省, 一般教育視学委員
3. 三鷹市, 教育委員
4. キリスト教学校教育同盟, キリスト教学校教師養成事業委員会, 副委員長
5. 民主教育協会, 「今日の大学教育」セミナー実行委員
6. 教育放送国際交流協会, 理事
7. 1987年8月3, 4, 5日, 雲仙で行われたキリスト教学校教育同盟・西南地区の第37回夏期学校の講師として「キリスト教学校の危機と克服——求められる教師像」を主題とする2回の講演を行った。
8. 1987年8月18, 19, 20日, 本学で開催された Pacific Region Association for Higher Education の年次大会の実行委員長をつとめた。

川瀬謙一郎教授

1 研究活動

- a. 宗教社会学の見地から見た人格形成の研究
- b. 市民エートスの歴史的背景の研究

2 学会発表 なし

3 著作

- a. 新版 社会思想史入門 (城塚登: 編) 有斐閣双書 1987年2月 (pp.86-103)

4 その他

- a. 関私協会計監査
- b. 関私協研究委員会教材開発部会 (第二小委) メンバー

ベンジャミン・C・デューク教授

Research Activities

Key Schools of China (Beijing, Shanghai & Sian)
The Religious Issue in American Education : Creationism

Publications

Books : The Japanese School (In Japanese), Kodansha, 1987
Great Educators From Japan (In Preparation)

Travel

China (April, 1987)
United States (Summer)

Others

English Editor, Japanese Journal of Educational Research,
Japan Society for Education

立川 明準教授

研究活動：

長年の研究課題である19世紀ニュー・イングランドの高等教育史は、本年は From Colleges to Religious-Scientific Institutions の題名のもとに、全体像に関する中間考察を行った。他方では、Amherst College の地質学者 Edward Hitchcock の科学観と宗教観との関連を調べ、19世紀中葉のカレッジ教育へのその影響を探った。また、19世紀の中途を境に、アメリカのカレッジ学生が、民衆の利益代弁者から、民衆を搾取する階級へと変貌した、とする O. A. Brownson の主張を、Amherst 及び Williams College の卒業生の職歴のデータの分析を通して、検討中である。

また、国会図書館所蔵の占領文書（マイクロ・フィッシュ）を用いて、占領期に於ける SCAP の科学技術政策と高等教育改革との関係を、調査研究中である。

学会発表等：

1. 1986年10月10・11日 慶応大学で開催された教育史学会年次大会に於いて、「過去を指向するランド・グラント・カレッジ」と題する研究発表を行った。
2. 1987年4月24・25日 米国 Massachusetts 州 Deerfield で開催された New England Historical Association の年次大会に於いて、“From Colleges to Religious-Scientific Institutions : Public Higher Education in Massachusetts 1848-1874.” と題する研究発表を行った。
3. 1987年8月18～20日 ICU を会場に行われた Pacific Region Association for Higher Education の年次大会に於いて、“The Internationalization of Higher Education in Post-War Japan : A Case Study in ICU.” と題する発表を行った。

著作：

1. “A Public College as the Garden of Eden : The Early Years of the Massachusetts Agricultural College” 『教育研究』 29, 1987, 1～22.

2. 栗山 容子助教授と共同執筆 「I.C.U. に於ける教育実習の評価の諸問題」『教育研究』29, 105~135 のうち116~135を分担。
3. 下山田 裕彦 他『教育の理想と人間形成』川島書店, 1987, に「授業と知識の組織化」を分担執筆, 61~84。
4. (書評)「森田 尚人 著『デューイ教育思想の形成』(新曜社, 1986)」『アメリカ学会会報』No. 85, May 1987.

その他:

1. (講演)「生命の<意味>について」三鷹市市民大学(於ICU), 1986年9月13日・20日の2回。
2. (講演)“Japanese Educational Philosophy, Excellence in Schools and Future Development.” Singapore の Ministry of Education 主催のPre-University Seminar at the National University of Singapore に於いて, 1987年6月24日。
3. その他, 上記 Pacific Association for Higher Education 年次大会の事務局を担当した。

林 昭道助教授

I. 研究活動

- 近代ヨーロッパ教育思想史研究(特にドイツ)。
教育の諸概念の成立の流れを追う。(ゲーテ, シュプラランガー, カッシーラーの著作を中心にして)。

高橋 浩副手

I. 研究活動

1. O. F. ボルノーとM. ブーバーを中心とした教師論研究。
2. 現代日本における教師がおかれている状況を分析し, 学校教育の再生を担いうる教師の教育活動を検討。
3. 戦時における教育学理論としての近藤寿治著『日本教育学』(1935年)において展開されている「我一汝」(Ich-Du)の概念を, ブーバー, ゴーガルテンなどの「我一汝」概念と比較し, その問題点を検討。
4. 1986年度を初年度とする文部省科学研究助成金による一般研究『道徳教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究—日・独・米の比較を中心に—』研究分担者として参加。

II. 学会発表等

1. 「M.ブーバーにおける教師論の特質」, 関東教育学会第34回大会, (1986年9月26日, 於中央大学)。
2. 「近藤寿治の『日本教育学』における「我一汝」概念の特質」, (中央大学教育学会, 1987年度, 第2回大会, 1987年7月31日, 於中央大学)。

III. 著作

1. 「ブーバーにおける教師論の特質」(『教育研究29』国際基督教大学学報I-A, 1987年3月, pp. 71-90)。
2. 「教師の今日的課題」(『教育の理想と人間形成—その原理と実践の探求—』, 川島書店, 共著, 1987年4月, pp. 85-112)。

松浦良充副手

I. 研究活動

1. 文部省科学研究費交付総合研究(A)「アメリカ教育における等質とエクセレンス追求の史的的研究」(研究代表者: 竹市良成愛知学院大学助教授)に研究協力者として参加。
2. 今世紀のアメリカ合衆国における教育改革・連邦レベルでの教育政策の史的展開と伝統主義教育思想の変容過程との関連についての研究。
3. 高等教育における「教育学・教育原理」教育実践の理論化を試みる研究(大学教育実践研究会による共同研究)。同研究の一環として, 1986年12月21~28日, 大学セミナーハウスで行なわれた, 杉野女子大学家政学部「教育原理」合宿に講師の一員として参加した。

II. 学会発表等

1. 「アメリカ教育におけるエクセレンス概念の史的展開——1980年代教育改革論議における概念把握をめぐる——」, 第4回アメリカ教育史研究会(上記I-1の科研費共同研究), 於東京私学会館, 1986年10月8日。
2. 「R. M. ハッチンズ対J. デューイ論争の再検討」, 日本デューイ学会第30回大会, 於兵庫教育大学, 1986年10月26日。

III. 著作(研究論文等)

1. 「パイディア教育改革提案(1982-4年)の問題点——M. J. アドラー教育改革論の批判的検討——」, 『教育哲学研究』第54号, 教育哲学会, 1986年11月, pp. 57-71。
2. 「1980年代アメリカ教育改革論議と伝統主義教育思想(1)——教育におけるエク

- セレンス概念の把握をめぐる——」、『教育研究』第29号，国際基督教大学学報I—A，1987年3月，pp. 23—51。
3. 『教育の理想と人間形成——その原理と実践の探求——』（下山田裕彦ほかとの共著），第V章「教育における管理と自由——教育哲学の課題として——」執筆，川島書店，1987年，pp. 113—148。
4. 「R. M. ハッチンズ対J. デューイ論争の再検討——1936～37年の高等教育論争の意味——」、『日本デューイ学会紀要』第28号，1987年6月，pp. 75—81。

IV. その他

1. （講演）「学寮生活における学生の自立について」，佼成看護専門学校教員研修会，於佼成看護専門学校，1986年12月3日。
2. 第10回ICU教育セミナー事務局担当世話人。
3. ICUアジア文化研究所研究助手として研究所の諸活動の補助的業務に従事。

佐藤尚子副手

1. 研究活動

- (1) 中国ミッションスクールの歴史を，日本の在華教育文化事業や日本のミッションスクールと比較し，日中間・米中間の教育交流と比較考察している。
- (2) 社会科教育法としての「問題解決学習」と「生活学習」の日本における歴史を分析している。

2. 学会発表

- (1) 1986年10月10日，教育史学会第30回大会（慶応義塾大学）において「日本外交文書に見られる中国の教育権回収問題」を発表
- (2) 1986年10月26日，日本デューイ学会第30回大会（兵庫教育大学）において「デューイと中国教育のアメリカ化」を発表
- (3) 1987年4月18日，比較思想学会例会（大正大学）において「デューイと中国教育」を発表

3. 論文

- (1) 「中国における女子教育の発展とミッションスクール」ICU『教育研究』29（1987年3月）所収
- (2) 「デューイと中国—1920年代の教育改革を中心に—」『日本デューイ学会紀要』28号（1987年6月）所収

心理学研究室

人の動き

1986. 9 原一雄教授は1年間の特別研究休暇を終えて復帰。
 1987. 4 都留春夫教授は2学期間の、また向井敦子講師（4月1日付で準講師より改称）は1年間の特別研究休暇に入る。
 星野命教授は、2年間の教養学部長（兼担）の任期を終える。
 須田佐津紀、小嶋正敏（以上4月－7月）、鹿志村和子、乙竹佐和、非常勤副手に就任。

非常勤講師

- 1986 秋学期 高頭秀明（花クリニック医師）「精神衛生」
 冬学期 芳賀 純（筑波大学教授）「学習心理学」
 市橋秀夫（墨東病院神経科医師）「教育心理学Ⅴ 精神病理学」
 鳥居修晃（東京大学教養学部教授）「知覚と認知の心理学」
 1987 春学期 児玉齊二（日本大学教授）「心理学の歴史と動向」

心理学談話会・講演会

1987. 2. 9. William A. Scott 博士による
 “Cross-National Research on Personality and Social Structure”（「社会心理学」公開授業）

論文発表会

1987. 2. 12 学士論文発表会 発表者：27名（氏名略）
 1987. 6. 17-18 修士論文発表会（6月卒業生）発表者：北島あゆみ
 1987. 6. 学士論文発表会（6月卒業生）発表者：金山麻里
 頼 雪鈴
 Rhee, Kun Do
 以上 3名

セミナー

1987. 7. 6- 9. 心理学サマーセミナー 於 八王子セミナーハウス
 （3泊4日） 参加者：教員3名、院生10名、学部生33名、計46名
 （実行委員長 鈴木 隆、アドバイザー 小谷英文）

特別行事

1986. 10. 9-10. ICU 心理学研究室創設30周年記念
 9日(木) コンボケーション 講師：古畑和孝 東京大学文学
 部教授
 パネル討議「心理・臨床と私」
 司会：近藤邦夫
 話題提供者：西村春夫，佐伯 孜，林 由利，
 信国恵子，土屋静子，近藤邦夫，近藤千恵
 10日(金) 植樹式 於 総合学習センター東側
 祝賀会 於 ICU 食堂西側
 あいさつ：星野 命
 ゲストスピーチ：長谷川浩一

その他

1987. 3. 6. 非常勤講師慰労会 於 吉祥寺へい珍楼
 1987. 5. 大学院新入生歓迎会

原 一雄教授

I. 研究活動

1. 神経心理学的研究：脳波と錯視における大脳半球の機能的非対称性
2. 環境心理学的研究：SD 法による教育環境の評価
3. 高等教育に関する研究：
 - a) 一般教育の国際的動向
 - b) 大学教員の教授能力の開発 (FD プログラム)

II. 学会発表等

1. 「大学教員研修プログラムの実践的課題」 一般教育学会 (於ICU) 1986.6. 8.
2. 「留学経験による国民性イメージの変容」 日本教育心理学会 (於九州大学) 1986.
 10. 5. (『社会8：カルチャーショック』の座長を勤める。)
3. 「生活空間のイメージと習慣的行動」 日本心理学会 (於名古屋大学) 1986.10.
 14 (『行動4-1：生活空間・適応』の座長を勤める。)
4. 「共同研究：FD プログラムの策定と実践的試行」 一般教育学会課題研究集會
 シンポジウムⅡ (於桜美林大学) 1986.11.30
5. 「一般教育の自己評価：私立大学の場合」 一般教育学会シンポジウムⅡ (於
 広島大学) 1987.6.7
6. "Self appraisal of international experiences on campus : Comparisons

among sub-groups of university constituents”, Pacific Region Association for Higher Education ; 1987 Annual Conference (at ICU), 1987. 8.20

Ⅲ. 著 作

1. 「大学教員研修プログラムの実践課題」『一般教育学会誌』第8巻第2号 1986, 61-65.
2. 「国際基督教大学の一般教育」『大学と学生 第249号』文部省高等教育局学生課編 1987, 23-27
3. 「第2章 一般教育のカリキュラムと実施体制 (I)」『高等教育研究紀要』第7号, 高等教育研究所 1987, 27-39.
4. 「12 喫煙行動に対する心理学モデル」(財)たばこ総合研究センター編『たばこを考える 1』平凡社 1987, 321-341
5. 「喫煙者の認知的動機づけの研究 (TASC 研究報告239-87)」(財)たばこ総合研究センター 1987, 89頁

Ⅳ. その他

1. (研究報告)「生活空間イメージと習慣的行動」(財)たばこ総合研究センター 1986. 9.25 (TASC研究員・松浦いね, 国際武道大学講師・石塚正一と共同発表)
2. (講演)「環境心理学と建築」東京大学工学部建築学教室 1987. 1.29
3. (研究報告)「喫煙者の認知的動機づけの研究」(財)たばこ総合研究センター 1987. 6.18 (国際武道大学講師・石塚正一と共同発表)
4. (雑誌論説)「人間と喫煙(1) たばこ: ゆとりの秘薬」(財)たばこ総合研究センター編『はあべすと No.19』 1986, Oct., 16
5. (雑誌論説)「人間と喫煙(2) たばこ: 安らぎの小道具」(財)たばこ総合研究センター編『はあべすと No.20』 1986, Nov., 28
6. (雑誌論説)「人間と喫煙(3) たばこ: 憩いの裏方」(財)たばこ総合研究センター編『はあべすと No.21』 1986, Dec., 25
7. (雑誌論説)「人間と喫煙(4) たばこ: 人間科学の宝庫」(財)たばこ総合研究センター編『はあべすと No.23』 1987, Feb., 27
8. (講演)「ICUを診断する」心理学サマー・セミナー(於八王子大学セミナーハウス) 1987. 7. 7
9. (講演)「ICU教育を評価する——卒業生追跡調査をとおして」第10回ICU教育セミナー(於ICU高校) 1987. 8. 5
10. (講演)「ICU教育を顧みる」同窓会30周年キャンパス・カミング(於ICU) 1987. 8.22

11. (研究助成金) 文部省科学研究費 (海外学術調査), 日米教育比較研究・高等教育班 (主査: 天城勲)
12. 学会役職
 - (1) 日本心理学会, 『心理学研究』, 『*Japanese Psychological Research*』誌編集委員
 - (2) 日本生理心理学会, 運営委員, 『生理心理学と精神生理学』誌編集副委員長, 英文アブストラクト委員, 諸規程改正案準備委員
 - (3) 日本基礎心理学会, 運営委員, 『基礎心理学研究』誌常任編集委員
 - (4) 日本教育心理学会, 『教育心理学研究』誌編集委員
 - (5) 国際基督教大学神経言語学研究会, 運営委員, 『*J. of Neurolinguistics*』誌 Associate Editor
 - (6) 「幼児の幸せを考える会」, 「INREALセラピー研究会」顧問

星野 命教授

1 研究活動

1. 前年に引き続き, 東京学芸大学海外子女教育センターにおける「帰国子女の心理臨床的研究プロジェクト」に座長として参加し, 毎月1回, これまでに, 20回の研究会を重ねてきた。プロジェクトの目的と研究アプローチ(3種)については, 本学報29号(1987)276頁に詳しくのべてあるが, 今年は, 帰国子女担当の教師・教育相談員からのヒアリングのほか, 帰国子女, およびその家族に実施された調査結果(名古屋大学教育学部堀田正巳氏ら, および塚本美恵子氏, 筑波大学医学研究科田村毅氏ら, 東京女子大学大野裕美氏ら)の報告を聴き検討した。このプロジェクトは1988年5月, 報告書の作成をもって終了する。
2. 本学大学院教授源了圓教授を代表者とする, トヨタ財団よりの助成を得た「日本文化における『型』の研究」に共同研究者9名のうちの一人として参加し, 隔月に行われた研究会・フィールド研究に出席したほか, 1987年8月31日と9月1日に諏訪湖畔の旅荘で行われた研究会では, 「出会いの『型』について」報告した。(前年度よりの継続)
3. 前年度に引き続き, 文部省科学研究補助金(一般研究C)による「青年期における異文化体験の自我同一性ステータスに及ぼす影響が二年目に入り, 共同研究者の長井進常盤大学講師とともに AFS で渡米した, かつての日本人高校生について渡航の前後, 帰国後の体験や意識の変化と上記ステータスとの関連を求める調査(質問紙および面接)を続行した。
4. 「文化と人間」の会の例会を第36回(1986年9月)から第41回(1987年6月)まで隔月に6回開催し, 発達心理学, 文化人類学, コンサルティング心理学, 精神医学, 言語心理学などの各分野からの話題提供をきき討論した。第38回では, 「中曾

根首相の『知識水準』発言にみる無神経・無感覚は、お一人のことか」と題して、日本人に根強い異民族蔑視・自民族中心主義を指摘する話題提供を行なった（著作欄参照）。

II 学会発表など

1. 1986年9月27日に大阪大学人間科学部で開催された、日本人間性心理学会第5回大会に出席し、シンポジウム「人間的な教育のあり方を求めて」の指定討論者をつとめた。日本における基督教主義学校における教育および西ドイツにおけるシュタイナー教育の一端にふれた。
2. 10月12-14日に名古屋大学で催された日本心理学会第50回大会に出席した。
3. 11月14日に千葉県市川文化会館で催された日本精神衛生学会第2回大会に出席し、ミニシンポジウムの一つのセッションの司会を担当した。
4. 11月9日に催された放送大学の祖父江孝男教授の還歴記念シンポジウム「日本人は変わったか」にコメンテーターの一人として参加した。
5. 11月21日に国立教育会館で催された第24回全国学生相談研修会のコース別グループ研修（管理職）に世話人の一人として参加した。
6. 11月22-23日に広島大学で催された日本社会心理学会・日本グループダイナミックス学会合同大会に出席した。
7. 1987年1月21日有楽町朝日ホールで開催された第1回日本精神保健会議に出席した。
8. 同年3月21・22日石川県山代荘で開催された第12回コミュニティシンポジウムに司会者の一人として参加した。
9. 5月15-17日新潟県上越市の上越大学で開かれた異文化間教育学会第8回大会に出席した。
10. 6月20日に札幌市北星学園大学で開かれた日本社会心理学会公開討論会『援助行動』に発表者の一人として参加し、「心理的援助とネットワークング」と題して、「いのちの電話」組織についてのべた。
11. 6月21日に仙台市東北福祉大学で開かれた人間主義学会第10回大会に発表者の一人として参加し、「ヒューマニスティック心理学のめざすものと得たもの」と題して発表した。
12. 7月2日-5日に福岡市で開かれた国際イメージ学会に出席し、分科会、懇親会の司会をつとめた。
13. 7月12-16日に東京の京王プラザホテルで開かれた国際行動発達学会（ISSBD）の第9回会議に出席し、「児童発達の異文化間研究」のシンポジウムにおいて研究発表を、また、別のシンポジウム「達成行動」において企画・司会を担当した。
14. 1987年7月18-20日にICUで行われたPRAHE会議に出席した。

Ⅲ 著作・論文

1. 「子どもの性アイデンティティの発達——性モデルとしての父親・母親」, 『児童心理』40巻15号, 1986年12月号(臨時増刊)。14-28頁。
2. 「対人関係とは何か」, 『こころの科学』12号(特別企画 対人関係の心理学), 1987年3月, 日本評論社, 40-44頁。
3. 「日本人らしさとは何か」, 『こころの科学』14号(特別企画—現代心理学への招待—), 1987年7月, 日本評論社, 110-115頁。
4. 「国際化社会と発達課題」, 小林哲也・江原武一編著『国際化社会の教育課題』, 1987, 行路社, 63-79頁。
5. 「私と心理検査法」, 『心理測定ジャーナル』23巻6号, 1987, 日本文化科学社, 1頁。
6. 「異文化間の心理②の刊行によせて」, 「文化と人間」の会編, 星野命・斎藤耕二・菊池章夫責任編集『異文化とのかかわり』1987年2月, 川島書店, 3-6頁。
7. 「中曽根首相の『知識水準』発言にみる無神経・無感覚はお一人のことか」, 『心と社会』48号, 1987, 日本精神衛生会, 119-122頁。

Ⅳ その他

1. 次の各大学に非常勤講師・講演者として出講した。
 - ①東京大学大学院教育学研究科教育心理, 1986.10-1987.2
 - ②大阪大学人間科学部社会心理学(集中講義)1986.12.20-25
 - ③金沢大学教育学部教育心理学(集中講義)1986.12.26-29
 - ④東京大学教養学部「人間行動学」講座, 1987.4-9(夏学期)
 - ⑤東京国際大学大学院社会学研究科「異文化間社会心理学」1987.4~(通年)
 - ⑥上智大学人間学研究室「ライフサイクルと人間の意識——成人期における心理学的諸問題」1987.4.22
 - ⑦日本ルーテル神学大学人間の成長とカウンセリング研究所カウンセリング講座「性格はかえられるか」1987.5.18-19
2. 東京多摩いのちの電話第Ⅲ期基礎講座「対人コミュニケーションの過程」講師, 1986.9.18
3. いのちの電話第8回全国研修会, 於横浜共立学園分科会 世話人として参加, 1986.9.19
4. 東京多摩いのちの電話第Ⅲ期生ロール・プレイ指導, 1986.10.1~1987.2.12(全8回)
5. 世田谷区(奥沢)区民講座講師, 1986.9.25, 10.2, 11.6, および11.17
6. 中野区教育委員会主催, 講座講師, 於中野区婦人会館, 1986.10.27
7. 東京都衛生局研修センター講義「対人コミュニケーションの問題と対応」, 1986.

- 11.7
8. 長野季節大学講義 於茅野市茅野文化センター, 1986.12.2
 9. 東京多摩いのちの電話第Ⅲ期生全員研修, 於八王子大学セミナー・ハウス, 1986.12.6
 10. 朝日カルチャーセンター日本語教師養成講座「日本語と日本文化」連講, 2月23日～3月3日(毎週2回, 計11回)
 11. 東京多摩いのちの電話第Ⅳ期開講講演「人間の成長可能性と自己拡充」, 於アジア大学, 1987. 4.25
 12. 東京都足立区区民大学, 於勤労福祉会館「日本人の異文化体験」1987.5.21
 13. 日本心理臨床学会馬場禮子常任理事の委嘱を受け, 1987. 4. 28より 5. 8まで北欧スウェーデンおよび西独における心理臨床家の養成訓練と資格認定の実状を視察取材するため渡航し, ルンド大学・ストックホルム大学, ウプサラ大学, ケルン大学, アーヘン工科大学等の心理学研究室を訪問したついでにデュッセルドルフ日本人学校をも訪問した。

以上のほか, 次の学会の役員をつとめた。

日本社会心理臨床学会 常任理事

日本心理臨床学会 監事

異文化間教育学会 理事(機関誌編集担当)

日本人間性心理学会 運営委員

日本精神衛生会 理事

「文化と人間」の会代表幹事

都留春夫教授

I 研究活動

- (1) エンカウンター・グループのプロセスと効果
- (2) カウンセリング事例研究

II 学会活動

- (1) 日本集団精神療法学会大会・参加
1987. 1.24-25 東京
- (2) 日本家族心理学会大会 指定討論者
1987. 6.27-28 京都

III 著 作

- (1) 「残された足跡は測り難く大きい」

- 『カウンセリング』第17巻第3号 (No.70) 23頁。
- (2) 「I Can Relax and Simply Be」『エンカウンター通信』—ロジャーズ博士
追悼記念特集—1987年3月号 (No.165) 8-9頁。
- (3) 「確信が革新を」『ENCOUNTER—出会いの広場』 No.5 (1987. 7) 16-17
頁。
- (4) 書評「臨床描画研究 I」『家族療法研究』第4巻第1号 (1987) 89-90頁。

IV その他

- (1) 国際基督教大学カウンセリング・センター・チーフ・カウンセラー
- (2) 日本集団精神療法学会 常任理事
- (3) 「人間性心理学研究」編集同人
- (4) 日本・精神技術研究所NPCC カウンセラー
- (5) PCAウイークエンド運営委員会 代表
- (6) 研修会, セミナーなど
- a) 土曜会 (月例カウンセリング事例研究会) 毎月第3土曜日 1泊 東京
- b) 国際基督教大学心理臨床懇話会 月例
- c) 第3回関東地区大学合同グループ, セミナー, スタッフ 1986. 9.13-16.
伊豆, 湯ヶ島
- d) 家族療法ワークショップ 参加 1986.11.8-9.
- e) 1986 Conference on the Future of Christian Higher Education
1986.11.17-20. 関西学院セミナーハウス
- f) 臨床的グループ・アプローチ研究会, コメンテーター。1986.11.22-24 広
島
- g) 国際基督教大学カウンセリング・センター・グループ合宿, スタッフ。1986.
12. 1-4 八王子大学セミナーハウス
- h) 東京グループ・アプローチ研究会, コメンテーター。1987. 1.31--2. 1 東
京
- i) グループ臨床カンファレンス, 話題提供。1987. 3.20--22 福岡
- j) NPCC ワークショップ, スタッフ。1987. 3.26--29 山中湖
- k) 臨床的グループ・アプローチ研究会合宿研修会 (みのちプログラム) スタッフ。
1987. 8.17--21 広島
- l) 第122回PCA ウイークエンド合宿, スタッフ。1987. 8.25-29. 伊豆, 伊東
- (7) 講演, シンポジウムなど
- a) シンポジウム「カウンセリング, いま問われているもの」1986.12. 7. 東
京
- b) 講演, 茨城県商工経済会人間関係研究所, カウンセリング入門講座 水戸

- (1) 「カウンセリングの態度と技術」1986.12.20
- (2) 「カウンセリングの体験過程」1987. 1.31
- c) 講演, 日本体育大学「グループ・レクリエーションの基礎」1987. 2.15

栗山容子助教授

I 研究活動

- 1. ものを扱う行動における象徴機能の発達と言語発達の間連
- 2. 異文化間の社会的相互作用の分析
- 3. 比喩の理解
- 4. 教育実習の評価に関する研究

II 著作

- 1. 「ICU に於ける教育実習の評価の諸問題」(立川明と共同執筆) 国際基督教大学学報 I - A 教育研究29, 1987, p.105-135

III 学会発表等

- 1. 「比喩理解の発達」日本教育心理学会第28回総会に於て発表 1986.10. 3-5 九州大学
- 2. 「協同作業場面に於ける集団帰属の様相」(向井敦子と共同研究) 同上
- 3. Developmental levels of symbolic function in manipulative play.
Presented at IXth Biennial Meetings of International Society for the Study of Behavioural Development, July 12-16, 1987, Tokyo.

IV その他の活動

- 1. 日本心理学会第50回大会参加 1986.10.12-14, 於 名古屋大学
- 2. 第7回オープンスクール公開実践研究会「適性に応じ自ら学ぶ学校生活の創造を求めて」1987. 2.10 愛知県東浦町立緒川小学校
- 3. セミナー: 「認知発達心理学に基づく読解指導」R.C. Anderson & J.M. Mason 1987. 7. 4-5, 安田生命教育センター
- 4. 研究要覧編集委員 ('87. 3まで)

小谷英文助教授

1. 研究活動

- 1) 個人力動と集団力動の接面: 個人力動の集団力動への変形と集団力動の個人力動の変形について, Bion, W.R. の理論を出発点において, 自我心理学及び対象関係理論を用いて基礎理論の構築を試みている。

- 2) 上記1)の理論研究の延長に性格障害の心理力動と治療技法の検討。
- 3) スーパービジョンの方法論に関する検討と、セラピストの訓練法の研究開発。

2. 学会発表等

- 1) 日本集団精神療学会, 第16回集団精神療法ワークショップ力動的・小集団精神療法の実践技法: 青年期集団精神療法の初回技法を中心に, 1986, 9.20 於東京
- 2) 日本集団精神療学会, 第4回年次大会, 体験グループ, トレーナー担当 1987, 1.25 於東京

3. 著作

- 1) 編著「逃げ場を無くした子どもたち」同文書院 1986
- 2) 共著「夢と幻想の心理学」近藤敏行編 ナカニシヤ出版 1986
- 3) 共著「やさしい集団精神療法入門」山口他編 星和書店 1987
- 4) 監訳「入院集団精神療法」山口・小谷監訳 へるす出版 1987 (Yalom I.D. 1984 Inpatient Group Psychotherapy)
- 5) 集団精神療法に関する訓練法の開発: シナリオ・ロールプレイ法の展開, 集団精神療法 1987, Vol.3, No.2, 179-185

4. その他

- 1) 小論, 評論
 - ① 情短施設における集団心理学的視点と集団心理療法「情緒障害児短期治療施設の記述比較研究」成果報告書, 1986, 10, 180-183
 - ② 思春期事例・イニシャルケースの報告に対するコメント「心理教育相談研究」(広島大学教育学部, 心理教育相談室紀要) 1986, Vol.3, 114-117
 - ③ 対談「精神療法の匙加減: 集団療法の可能性」こころの臨床ア・ラ・カルト 1987. 6, No.19, 114-128
 - ④ 保健室の中の子どもたち, 「くらしの知恵」共同通信社 1986, No.92, 5-8
- 2) 講演等
 - ① 家庭裁判所調査官研修所
事例研究スーパーバイザー: 1986年10月21日, 10月23日, 10月25日, 10月28日。(スーパービジョン担当)
 - ② 調布市教育研究所
研修講師「カウンセリング技法: 応答構成を中心に」1986年11月7日
 - ③ 杉並区児童福祉センター講演
「カウンセリングの基礎」1986年11月11日

- 「カウンセリングの実際」 // 12月4日
- ④ 広島市衛生局環境保健部健康管理課
保健婦研修講師「カウンセリングの技術一日ワークショップ」1986年11月25日
- ⑤ 広島県立広島看護専門学校, 集中講義, カウンセリング 1986年11月26日～11月28日
- ⑥ 第15回広島県精神衛生大会
記念講演「親子関係と情緒障害」1986年11月29日
- ⑦ 広島養護教諭精神衛生研究会, 1泊研修会
事例研究スーパーバイザー 1986年11月29日, 30日
- ⑧ 広島市精神衛生指導センター
スーパービジョン「デイケアにおける集団療法」1986年12月1日
- ⑨ ジェック全社研修講師
「創造性の開発」1986年12月2日
大阪支社研修講師
「個性と創造性」1986年12月13日
- ⑩ 神奈川県立学校保健会養護教諭精神衛生研究会
事例指導 1986年1月17日
- ⑪ ルーテル神学大学カウンセリング研究所
講師「集団精神療法」1987年2月16日・17日
- ⑫ 広島カウンセリング・スクール
グループ・アプローチ研修, オーガナイザー兼トレーナー 1987年2月21日・22日
- ⑬ 長谷川病院, 集団療法スタッフ研修
Tグループトレーナー 1987年3月4日・5日
- ⑭ 東京大学学生相談所合宿研修講師
エンカウンター・グループ, ファシリテーター 1987年3月17日～3月20日
- ⑮ 日本精神技術研究所NPCCワークショップ
「精神分析的集団精神療法による教育分析」担当 1987年3月26日～3月29日
- ⑯ ジェック全社研修講師
「アウトプット人間の理想像とその実現化の道」1987年3月31日
- ⑰ 東京家庭裁判所
事例研究スーパーバイザー1987年6月3日
- ⑱ 家庭裁判所調査官研修所 62年度実務研修
講師「面接を通じての人格理解Ⅰ」1987年6月17日
「面接を通じての人格理解Ⅱ」 // 6月19日

スーパーバイザー「人格理論に着目した事例研究」6月30日

- ⑱ 杉並区児童福祉センター
講演「カウンセリングの技術」1987年7月2日
 - ⑳ 東京都教育研究所 昭和62年度スクールカウンセラー研修講座中・上級宿泊
研修会講演「ロールプレイングの意義とすすめ方」1987年7月28日
 - ㉑ 日本心理劇協会第10回夏季相互研修会
特別研修講師「シナリオ・ロールプレイ」1987年8月8日
 - ㉒ 臨床的グループ・アプローチ研究会第5回夏プログラム
(みのちプログラム)プログラム・オーガナイザー兼トレーニング・グループ
「プロセス・グループ」トレーナー 1987年8月16日～8月21日
- 3) 学会等の役職その他の学外活動
- ① 日本集団精神療法学会常任理事
 - ② 日本集団精神療法学会, 学会誌「集団精神療法」編集委員
 - ③ 第1回環太平洋集団精神療法学会, 広報委員会副委員長
 - ④ 国際集団精神療法学会, 太平洋地域プログラム委員会委員
 - ⑤ 日本精神技術研究所NPCCトレーニング・プログラム・トレーナー
 - ⑥ 長谷川病院集団精神療法スーパーバイザー

向井敦子講師

1. 研究活動

- (1) 対人状況における認知判断と視点との関係の検討。今年度は特に原因帰属と視点との関係に焦点をあてた。
- (2) 援助場面における愛他的判断の条件探索。
- (3) 日本人の対人行動の規定因に関する考察。

2. 学会発表

- (1) 1986年9月, 日本教育心理学会第28回総会において, 「協同作業場面における原因帰属の様相——課題達成志向の制限度と完成数を手がかりとして——」を発表(同発表論文集 pp.464-465)(栗山容子との共同研究)同発表部門の座長をつとめた。
- (2) 1986年10月, 日本心理学会第50回大会において, 「愛他的状況での心理的負荷処理の型 (1)援助判断の類型と傾向 (2)個人的援助判断傾向の特性」を発表(同発表論文集 pp.634-635)(深谷澄男との共同研究, 向井は(2)を口頭発表)同発表部門の座長をつとめた。
- (3) 1987年7月, 国際行動発達学会第9回大会(IXth Biennial Meetings of International Society for the Study of Behavioural Development.)

において、“Coexistence of expectancies for internal versus external control in Japanese psychology.” を発表 (Abstracts Poster Presentations, p.217) (深谷澄男との共同研究)

3. 著作

- (1) 対人認知の発達 こころの科学, 12, pp.46-51, 1987
- (2) 不協和の発生と解消の過程を規定する心理論理の再考 国際基督教大学学報 I-A 教育研究29, pp.137-168, 1987 (深谷澄男との共著)

視聴覚教育研究室

<主な研究活動>

1. 第23回日本視聴覚教育学会・第31回日本放送教育学会連合大会

本研究室に事務局を置く日本視聴覚教育学会及び日本放送教育学会(会長西本三十二名誉教授)の連合大会が、早稲田大学を当番校とし、1986年10月10日(金)、11日(土)の両日、同大学教育学部で開催された。自由研究発表は28件あり、シンポジウム及び課題研究は次のようなテーマで行なわれ、研究室から中野教授、阿久津教授、石本教授、および大学院生が参加した。

- シンポジウム：「生涯教育環境形成の諸問題」
- 課題研究Ⅰ：「教師教育における映像利用」
- 課題研究Ⅱ：「近未来における放送教育」

2. 修士論文発表会

1987年3月25日

発表者	題目
西口 光一	コンプリヘンション・アプローチによる授業設計の実証的研究 —アメリカ人高校生に対する日本語教育への適用—

3. その他

*横田淳子, 北條礼子, 岩佐玲子, 田地庸子, 平形裕紀子, 来嶋洋美, 田口三奈らは、研究協力者として、中野教授、石本教授と共に東洋(東大名誉教授)を代表者とする「外国語教育における音声つき静止画再生装置の適用に関する基礎的研究(文部省科学研究費によるプロジェクト)」に参加した。

*北條礼子, 岩佐玲子, 田地庸子, 浦田俊之, 駒井利江, 田口三奈, 斎藤由也, 鈴

美加らは、研究協力者として、石本教授と共に中野教授を代表者とする「外国語教育における音声つき静止画再生装置の適用に関する基礎的研究（文部省科学研究費によるプロジェクト）」に参加、次の2つの研究を行なった。

- 1 外国語教育プログラム作成にかかわる基礎的要因を明らかにするための研究
- 2 外国語教育 CAI プログラムの開発に関する研究

* 佐々木輝美、岡見英一は、阿久津教授と共に「テレビ視聴による文化化の問題」についての研究を行なった。

＜人の動き＞

北條礼子、岩佐玲子、佐々木輝美、田地庸子、岡見英一、来嶋洋美、駒井利江、田口三奈、齋藤由也、鈴木美加の10名が4月より新たに非常勤副手に就任した。うち、北條礼子は6月末日に非常勤副手を辞し、上越教育大に専任助手として赴任した。

阿久津喜弘教授

I. 研究活動

- (1) 「新教育社会学辞典」の共同編集。
- (2) 青少年非行とマス・メディアに関する研究。
- (3) 教育の国際化・情報化に関する研究。

II. 学会発表

- (1) 日本教育社会学会第38回大会（1986年11月1日－3日、京都大学）において「テレビといじめ」（佐々木輝美・武藤栄一と共同研究）について発表。

III. 著作

- (1) 「春・秋二回入学制大学の実態」『教職研修』15巻3号、1986年11月、66－67頁。
- (2) 「コミュニケーション」「コミュニケーション分析」「コミュニケーションの流れ」「道具的コミュニケーション・表出的コミュニケーション」「オピニオン・リーダー」「情報」「情報化社会」など、日本教育社会学会編『新教育社会学辞典』東洋館出版社、1986年11月、45-46、241、310-314、478-479、665頁。
- (3) 「情報の選択と活用」高石邦男編『学校と家庭をむすぶ新教育論3』教育開発研究所、1987年7月、150-157頁。

IV. その他

- (1) 日本視聴覚教育学会理事、編集委員。
- (2) 日本放送教育学会理事、編集委員。

- (3) 日本教育社会学会監査。
- (4) 三鷹市社会教育委員。

中野照海教授

I. 研究活動

昨年度からの継続および1987年度に研究助成を得たもの、および関心を持って継続中の研究は、以下の通りである。

1. 「外国語学習における音声つき静止画再生装置の適用に関する基礎的研究」(文部省科学研究費助成総合A 代表東洋, ICU班主査)
2. 「音声・文字・画像提示による外国語教育CAIコースウェア開発に関する基礎的研究」(文部省科学研究費助成一般B 研究代表者)
3. 研究課題「放送教育における授業の実践的研究」(放送文化基金研究助成 研究代表者)
4. 「視聴覚教材情報全国システム整備調査研究」(文部省特別依託研究・日本視聴覚教育協会 主査)
5. 「教育テレビ放送と他のメディアとの最適組合せによる教材の開発と効果の研究」(文部省依託研究・日本放送教育協会 主査)
6. 「教育放送の技術移転に関する研究—アジア太平洋地域教育放送シンポジウムの開催」(放送文化基金研究助成 タイ国文部省教育工学センター・教育放送国際協力推進会議事務局長)
7. 調査「ホンデュラス国立教育実践研究所設立基本設計調査」JICA調査団(団長) 5-24 より6-7 まで, 1987.

『視聴覚教育の研究と評価』(日本視聴覚教育協会), 編著『教育メディア』(日本教科書センター)を準備中。「教師のためのコンピュータ・リテラシー」『指導と評価』の編集, 「教育過程における映像の機能」の研究は継続中。

II. 学会発表等

1. 研究発表「外国語教育における音声つき静止画再生装置の適用に関する基礎的研究——1. 英語学習プログラム構成方法としての聴覚・言語法と認知・規範法との比較実験」(共同研究者) 第2回日本教育工学会大会 於愛知教育大学 9-29-1987
2. 研究発表「マイクロコンピュータを用いた専門分野別日本語学習システム(上級用)の開発 (1)」, 「——同—— (2)」(共同研究者), 第2回日本教育工学会大会 於愛知教育大学 9-29-1987
3. 研究発表「英語教材提示における音声刺激と音声・文字刺激併用との比較効果について」(共同研究者) 第23回日本視聴覚教育学会・日本放送教育学会合同大会 早稲田大学 10-11-1987

4. シンポジウム「生涯教育環境形成の諸問題」第23回日本視聴覚教育学会・日本放送教育学会合同大会 早稲田大学 10-11-1987
5. 基調講演「教育学の課題と研究の方法」日本教育工学会研究会 上越教育大学 10-18-1987
6. Report "Survey on Educational Broadcasts in Asia and Pacific Region" at The First Symposium on Educational Broadcasts in Asia-Pacific Region, held in Yogyakarta, Dec. 1-3, 1986.
7. Report "A Trial of Two-way Remote Teaching System for Higher Education" Association for Higher Education in Pacific Region, 8-20-1987.

著作

1. 「メディア教育の課題と動向」『授業研究情報』1986年11月 87-88.
2. 「自己教育力の育成と学習情報メディアの役割」『指導と評価』32巻12号 1986年12月 9-12.
3. 「教師のためのコンピュータ・リテラシー」『指導と評価』32巻12号 1986年12月 44-48.
4. 「教育学の現状と課題」『教育展望』1986年10月号 4-7.
5. 「放送教育における情動性の復権」『放送教育』1986年10月 16-19.
6. 「情報化社会の進展とコンピュータの教育利用——教育理論との整合性について——」『教育と情報』1986年10月 2-7.
7. 「『教師による統合』がキーワード」『ニューメディアと教育』1987年3月 36-41.
8. 「視聴覚教育の原点を探る①——視聴覚教育の情動性の復権」1987年4月 28-31.
9. 「アジア・オセアニアの教育放送の現状」『放送教育』1987年5月 41-44.
10. 「コンピュータ社会と子どもたちを考える」『教育マイコン実践』1987年5月号 2-5.
11. 「コンピュータ社会と教育」(坂元他編)『メディア教育のすすめ第4巻』ぎょうせい 1987年5月 1-32.
12. 「授業形態と教材の多様化のすすめ」『社会化教育』No.265, 1985年1月号, 47-48 (昨年度記載もれ)

エッセイ

- ① 「和して同ぜず——日常茶飯事の中の国際化」『視聴覚教育』1987年1月 30-31.
- ② AVEレポート「ペスタロッちはどこへいった」『視聴覚教育』1987年6月 44-45.
- ③ AVEレポート「タバコとワープロ」『視聴覚教育』1987年7月 44-45.
- ④ AVEレポート「メディアからでなく教育課題から——国際化のなかの視聴覚教

育』『視聴覚教育』1987年8月 38-39.

- ⑤ AVEレポート「教師の研修会——この夏なにを得ましたか」『視聴覚教育』1987年9月 94-95.

Ⅲ. 講演等

1. 講演「学習センターの機能の拡充」文部省学校図書館協議会 9-17-1987.
2. 講演「視聴覚機器の教育特性に関して」10-24-1987.
3. シンポジウム「メディア変革期・教師変革期」全放連第37回大会 高知市 11-14-1987.
4. Special Lecture, Fundamental Problems of Evaluation in Audiovisual Education, JICA Okinawa International Center, Dec. 18-19, 1986.
5. 講義「教育の方法」日本海外通信技術協力センター, 3-27-1987.
6. シンポジウム「多メディア時代における放送教育」日本放送教育協会(駒場エミナス) 3-27-1987.
7. Special Lecture, Theories of Audiovisual Communication, JICA Okinawa International Center, March 2-3, 1987.
8. 講演「情報化社会における学校教育」埼玉県南教育センター 7-1-1987.
9. 講義「世界の放送教育と日本の放送教育」全放連特別研修会(日本青年館) 7-27-1987.
10. シンポジウム「学校における視聴覚教育の課題」文部省視聴覚教育上級研修(国立社会教育会館) 7-29-1987.
11. 講演「現代の視聴覚教育の動向」宇都宮教育委員会 8-1-1987.
12. 講演「多メディア時代における放送・視聴覚教育」山梨県教育委員会 8-5-1987.
13. シンポジウム「教授・学習過程の評価」東芝教育技法研究会(川崎市) 8-8-1987.

Ⅳ. その他

1. 日本視聴覚教育学会理事, 『視聴覚教育研究』編集委員
2. 日本放送教育学会理事, 『放送教育研究』編集委員長
3. 日本教育工学会理事, 広報委員, 運営委員, 研究奨励賞委員, 論文賞委員, 『日本教育工学雑誌』編集委員・編集幹事
4. 文部省社会教育審議会委員, 教育メディア文科会委員, 社会通信教育文科会委員
5. 文部省学術審議会専門委員
6. 国立民族学博物館電算機委員会委員
7. 国立民族学博物館展示委員会委員
8. 日本放送協会学校放送中央諮問委員会委員
9. 「視聴覚教育賞」(文部省・視聴覚教育協会)選考委員会委員
10. 財団法人AVCC 理事

11. 日本教育工学協会理事
12. 日本機械振興会 JIS 規格委員会・映写機等小委員会副委員長
13. 『教育マイコン実践』(日本科学技術協会) 編集委員

石本菅生教授

1. 研究活動

- a 外国語学習における音声付き静止画再生装置の適用に関する基礎的研究 [科学研究費(総合研究A) 代表者 東洋白百合女子大学教授] に研究分担者として参加(昭和60年4月より62年3月まで)
- b 音声文字画像提示による外国語教育 CAI コースウェア開発に関する基礎的研究 [科学研究費(一般B) 代表者 中野照海教授] に研究分担者として参加(昭和62年4月より), 適応型ドリル・プラクティスプログラムに関する研究を行っている。

2. 学会発表(研究分担者として連名)

- a 外国語教育における音声付き静止画再生装置の適用にかんする基礎研究 1
英語学習プログラムの構成方法としての聴覚言語法と認知規範法との比較実験
日本教育工学会大会発表論文集 p. 87-88 1986
- b 外国語教育における音声付き静止画再生装置の適用にかんする基礎研究 2
英語教材提示における音声刺激と音声文字刺激併用との比較効果について
日本視聴覚教育学会大会発表論文集 p.31-32 1986
- c マイクロコンピュータを用いた専用分野別日本語学習システム(上級用)の開発 1
日本語上級語い学習教材の開発 日本教育工学会大会発表論文集 p.79-80
1986
- d マイクロコンピュータを用いた専門分野別日本語学習システム(上級用)の開発 2
文字音声提示併用の効果 日本教育工学会大会発表論文集 p.81-82 1986

3. 著 作

- a 日本語教育(上級)のための CAI システムの開発 ICU 教育研究29 1987/
3 (共著)
- b 教師のためのコンピュータ・リテラシー コンピュータの仕組
コンピュータとの対話 指導と評価 Vol.33 No.6 日本教育評価研究会
1987/6

4. その他

- a 日本視聴覚教育学会理事

- b 日本放送教育学会理事
- c 日本教育工学会編集委員
- d TEACHER'S NETWORK FORUM（電子教育会議）理事

佐々木輝美副手

I 研究活動

1. テレビ暴力番組類型化の基準設定に関する研究
2. テレビ暴力番組が子供に与える影響に関する研究
3. テレビコマーシャルに関する研究

II 学会発表

1. 1986年11月, 第38回日本教育社会学会において, 「テレビといじめ」を発表。(阿久津喜弘と共同研究, 佐々木と武藤が発表)

III 著作等

1. “A STUDY OF THE JAPANESE COMMUNICATION STYLE : Some Cross-cultural Insights into *ma*.”, 『教育研究』 No.29, 国際基督教大学学報 I - A, 1987年3月, 193-211.
2. テレビ番組における「いじめ」描写が子供の「いじめ」行為に与える影響に関する研究(武藤栄一共著)『放送教育研究』日本放送教育学会編 15号 1987年5月 57-70頁
3. テレビ暴力研究における諸理論のテレビCM研究への応用『吉田秀雄記念事業財団助成研究集』1987年6月 223-232頁

岩佐玲子副手

I 研究活動

1. 外国語教育に関する基礎的研究
2. 外国語学習へのCAIの適用

II 学会発表

1. 昭和61年9月30日 第2回日本教育工学会大会において, 横田淳子(発表者)・田地庸子・石本菅生と連名で発表: 「マイクロコンピューターを用いた専門分野別日本語学習システム(上級用)の開発(1) - 日本語上級用語い学習教材の開発 -」(論文集79~80頁)
2. 昭和61年9月30日 第2回日本教育工学会大会において, 田地庸子(発表者)・横田淳子・石本菅生と連名で発表: 「マイクロコンピューターを用いた専門分野別日

本語学習システム（上級用）の開発（2）—文字・音声併用の効果—」（論文集81～82頁）

3. 昭和61年9月30日 第2回日本教育工学会大会において、北條礼子（発表者）・中野照海・石本菅生・倉井康維（東京都立調布南高等学校）と連名で発表：「外国語教育における音声付き静止画再生装置の適用に関する基礎的研究（1）—英語学習プログラムの構成方法としての聴覚・言語法と認知・規範法との比較実験—」（論文集87～88頁）
4. 昭和61年10月10日 第31回日本放送教育学会・第23回日本視聴覚教育学会合同大会において、北條礼子・石本菅生・中野照海と連名で発表：「外国語教育における音声つき静止画再生装置の適用に関する基礎的研究（2）—英語教材提示における音声刺激と音声・文字刺激併用との比較効果について—」（論文集31～32頁）
5. 昭和62年3月30日 The First International Language Testing Conference (JALT) において、北條礼子（発表者：上越教育大学）・田口三奈と連名で発表：“Formative Evaluation and Construction of CAI Software for Vocabulary Building”
6. 昭和62年10月4日 日本教育工学会第3回大会において北條礼子（発表者）・斉藤由也と連名で発表：「読解力向上 CAI による完全習得学習に関する開発研究—語いの学習における辞書引き行動と学習所要時間を中心に—」（論文集105～106頁）
7. 昭和62年10月11日 第32回日本放送教育学会・第24回日本視聴覚教育学会合同大会において発表：「小学校における伝言送達電話の活用—教師と父母のコミュニケーションの活性化のために—」（論文集91～92頁）

Ⅲ 著作

1. 田地庸子・横田淳子・石本菅生・岩佐玲子・来嶋洋美（国際基督教大学）「日本語教育（上級レベル）のための CAI システムの開発」国際基督教大学学报 I -A 教育研究29 169～192頁 昭和62年3月
2. 北條礼子・岩佐玲子・中野照海「外国語教育における音声つき静止画再生装置の適用に関する基礎的研究」日本視聴覚教育学会紀要，視聴覚教育研究 第17・18号 17～31頁 昭和62年7月
3. 「学校教育と INS」『高度情報都市づくりⅡ—三鷹市 INS 実験地区からの報告—』財団法人日本地域開発センター 99～146頁 昭和62年9月

Ⅳ その他

1. 昭和60, 61年度, 科研総合(A) ICU 班「外国語学習における音声付静止画再生装置の適用に関する基礎的研究」(代表者, 東洋)のうち, 英語及び日本語学習プログラムの作成と評価を分担。

2. 昭和61年度「INSによる教育，防災システム調査研究」（三鷹市－（財）日本地域開発センター協同研究）に参加。教育システム（学校教育・社会教育）の調査と評価および報告書作成を担当。

田地庸子副手

I 研究活動

1. コンピュータを用いた日本語学習支援システムの基礎研究と開発
2. 昭和61年度科研総合（A）「外国語学習における音声つき静止画再生装置の適用に関する基礎的研究」（代表者，東洋）のうち，日本語学習のプログラム作成と評価を分担。
3. 昭和62年度科研一般（B）「音声・文字・画像提示による外国語教育 CAI コースウェア開発に関する基礎的研究」（代表者，中野照海）のうち，日本語学習のプログラム作成と評価を分担。

II 学会発表

1. 1986年9月30日 日本教育工学会第2回大会において「マイクロコンピュータを用いた専門分野別日本語学習システム（上級用）の開発2－文字・音声提示併用の効果」（中野照海・石本蒼生・横田淳子・岩佐玲子との共同研究，田地が発表）
2. 1987年4月18日 日本語教育学会研究例会において「マイクロコンピュータを用いた専門分野別日本語学習システム（上級用）の開発3－学習記録の検討」（来嶋洋美・平形裕紀子との共同研究，田地が発表）

III 著作

「日本語教育（上級レベル）のための CAI システムの開発」ICU 教育研究 29, 1987, 169-191

英語教育研究室

小林栄智教授

I 研究活動

- (1) 中英語初期の *South English Legendary* の語い構成，意味変化の研究。
- (2) 中英語の“Apollonius of Tyre”の完全な glossary を武内信一氏と作製中。
- (3) 大学・高校英語教材の研究・作製。

II 著作等

- (1) “The Old English *Apollonius of Tyre* is complete as it stands,”

- 『教育研究』29, 1987, 213-233.
- (2) 「もうひとつの『風と共に去りぬ』—あの Rhett Buttler のモデルは?—」,
『高等学校教育ノート・英語』(学校図書), 1987, 1-8, この小文は Anne
Edwards, *Road to Tara—The Life of Margaret Mitchell—*, Dell,
New York, 1983を資料にしている。
- (3) “English Language Education—Listening Comprehension First—,”
『群英』(群馬県高等学校教育研究会英語部会) XXV, 1986, 31-37.
- (4) (共編著) *English, Of Course II*, 三修社, 1987.
- (5) (共著) *Why English I*, 学図, 1987, 改訂.
- (6) (共著) *Why English II*, 学図, 1987, 改訂.
- (7) (共著) *Read English II*, 学図, 1987, 改訂.
- (8) (共著) *Write English IIC*, 学図, 1987, 改訂.
- (9) (執筆・編集・共)『小和英辞典』, April, 1985—.

Ⅲ その他

- (1) 日本英語学会・評議員, 1983—.
- (2) 日本中世英語英文学会・評議員, 1987—.

村木正武教授

1. 研究活動

- a. 日本語の統語範疇設定の手順について
- b. 日本語における意味論と統語論との境界について
- c. 述語と派生接辞の区別について
- d. 外国人の日本語の発音のスペクトログラフによる分析

2. 学会発表など

- a. 1986. 9.13, 「GPSG と日本語」, 日米文科系学術交流センター公開講演, 神戸大学文学部.
- b. 1987. 2. 2, 「たい, がる, たがる, られる (GPSG 的分析)」, 第1回「大学と科学」公開シンポジウム『日本語の特性と機械翻訳』, 有楽町朝日ホール.
- c. 1987. 8.14, Fri, “Tai, garu, and tagaru”, Section Paper, 14th International Congress of Linguists, Humbolt University, East Berlin, DDR.

3. 著作 (著書と論文)

- a. 1986, 「書評, 山梨正明著, 『新英文法選書 12, 発話行為』, 大修館書店,

- 1986/7], 『英語青年』, 132 : 9.41-42 (132 : 457-458).
- b. 1986, "Categorial analysis of passivization and reflexivization of Japanese", Soga, Matsuo, ed., 1986, *Proceedings of the Nitobe - Ohira Memorial Conference on Japanese Studies, Panel 4 : Papers in Japanese Linguistics*, University of British Columbia, Vancouver, B.C., Canada, 97-123.
- c. 1987, "On comparative yori", *Educational Studies*, 『教育研究』, ICU, 29 : 235-244.
- d. 1987, 「たい, がる, たがる, られる (GPSG 的分析)」, 『日本語の特性と機械翻訳』, 第一回「大学と科学」公開シンポジウム予稿集, pp.11-22.
- e. 1987, "*Tai, garu, tagaru, rareru* (GPSG-teki bunseki)", 第1回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編, 『日本語の特性と機械翻訳』(株)出版科学総合研究所, pp.31-40.

4. 学会及び研究団体における委員, 役員

- a. 1983-1987, 編集委員, *English Linguistics*, 日本英語学会.
- b. 1983-, 評議員, 日本英語学会.
- c. 1984-, 所長, 教育研究所, ICU.
- d. 1983-, 幹事, 日本論理文法研究会(会長:石本新).
- e. 1985-, 委員, 日本言語学会.
- f. 1985-, 客員研究員, 言語文化研究所, 津田塾大学.
- g. 1986. 7.1-1988. 2.15, 文部省学術審議会専門委員(学術用語分科会)

R. リンディ教授

1. Applied Phonetics : [s] and [z] in English : Frequency : Physiology : Morphophonemic significance ; Stridency ; etc. —An ignored phenomenon in English teaching.
2. On-going revision, editing and writing of Ministry of Education Approved text material for Middle School.
3. Classroom motivation for lower levels of English teaching.

F.C. パン教授

I. 研究活動

Although my research has always been concerned with linguistics, neurolinguistics, and sign language, this academic year was somewhat tilted to neurolinguistics, owing to the fact that I have been more active

overseas. Consequently, more work was done in the second area. However, this is not tantamount to saying that no work was done in the first and third area.

The first area of research was related to textbook publications and presentations of papers at various conferences. I have for one thing signed a contract with Whurr Publishers of London to produce a textbook series in linguistics and applied linguistics, the first five textbooks of which are due to appear in 1989. They are: (1) *Introduction to the Study of Language*, (2) *Introduction to Linguistics*, (3) *Phonology*, (4) *Morphology*, and (5) *Syntax*. The preparation for these textbooks is now under way. In addition, I also presented five papers at the 12th ICU Conference on Sociolinguistics (July 19–20, 1986), the 10th ICU Conference on Child Language Acquisition (July 20, 1986), and taught a course at the 10th ICU LSSI (21–25).

The second area of research was done primarily in Taiwan and Japan at various hospitals where I saw many patients who were aphasics or epileptics. The most exciting research was the neurolinguistic assessment of epileptic patients who had intractable seizures. They were examined by me as candidates for surgical treatment. The assessment would continue for new patients. And I hope that the data collected from these assessments will be analyzed for presentation in 1990 when the Second International Conference of Neurolinguistics is held in Tokyo. I also presented three papers at the 8th ICU Conference on Neurolinguistics (November 22–23, 1986).

The third area of research was the construction of a sign language dictionary. The drawings of signs proved to be more difficult than I had anticipated. But cards were employed so that each sign could be drawn on one card with definition(s) for that sign; that is, each sign contains a set of lexical meanings with corresponding illustrations for its usage in a linguistic context, such as a sentence.

II. 学会発表

1. 「パプア・ニューギニアの親族呼称」 The 12th ICU Conference on Sociolinguistics, July 19, 1986.
2. 「出会いと別れの挨拶」 The 12th ICU Conference on Sociolinguistics, July 19, 1986.

3. 「日本の手話に見られる意味と語いの関係について」 The 12th ICU Conference on Sociolinguistics, July 19, 1986.
4. 「健康児童の言語発達 : Discourse に関する一考案」 The 10th ICU Conference on Child Language Acquisition, July 20, 1986.
5. 「幼児と児童の言語発達に見られる Discourse 習得過程」 The 10th ICU Conference on Child Language Acquisition, July 20, 1986.
6. "Agrammatism Redefined," The 8th ICU Conference on Neurolinguistics, Nov. 22, 1986.
7. "Language Deficits in Multi-Infarct Demential Patients," The 8th ICU Conference on Neurolinguistics, Nov. 22, 1986.
8. "Degree of Agrammatism and the Recovery of Aphasia," The 8th ICU Conference on Neurolinguistics, Nov. 23, 1986.
9. 「言語はものではない」国際理解教育を考える会, 東京, March 31, 1987.
10. "On Aphasic and Non-Aphasic Language Disorders : Similarities and Dissimilarities with Pespect to Agrammatism," The Third IALP Aphasia Committee Meeting, April 22-23, 1987.
11. "Sign Language in the Brain : Current Thinking in Neurolinguistics," The Fourth International Symposium on Sign Language Research," Lappeenranta, Finland, July 15-19, 1987.

Ⅲ. 著作と発表論文

- 1987a *Language Sciences*, Vol. 9, No. 1, Editor
- 1987b *Language Sciences*, Vol. 9, No 2, Editor
- 1987c Edited with Kyoko Yashiro and Koji Akiyama, Hiroshima : Bunka Hyoron Publishing Company.
- 1986a *Journal of Neurolinguistics*, Vol. 2, No. 1, Editor
- 1986b *Journal of Neurolinguistics*, Vol. 2, No. 2, Editor
- 1986c "Agrammatism and Conduction Aphasia : A Chinese Case," with Yiu Tong Chu and Hoi-Keung Yiu, *Journal of Neurolinguistics* 2. 2. 209-32.
- 1986d "Agrammatism of Chinese Transcortical Aphasics," with Yi-Wen Chia, Yi-Chi Wang, and Chun-Jen Shih, *Journal of Neurolinguistics* 2.2.233-60.
- 1986e "Semantic Jargonaphasia : A Taiwanese -Japanese Bilingual Case," with San-Yong Huang, *Journal of Neurolinguistics* 2. 2. 261-76.

- 1986f “Patterns of Information Retrieval from LTM in the Process of Verbalization by a Conduction Aphasic: A Chinese Case”, with Cecil Guang Shiung Chang and Jeng-Yih Yü, *Journal of Neurolinguistics* 2. 2. 277-96.
- 1986g “Some Observations on Amnesia in a Herpes Simplex Encephalitis, with Kazuko Fukushima and Yasuo Harigaya, *Journal of Neurolinguistics* 2. 2. 315-24.

R.H. スラッシャー 準教授

Publications :

1. “Self-evaluation : The Question of Accuracy” Descriptive and Applied Linguistics Vol. XX 1987 pg 203-8
2. “Testing for Proficiency Level Placement, Diagnostic Assessment, Grade Assignment, and Program Evaluation” Trends on Language Program Evaluation Chulalongkorn University Language Institute, Bangkok 1987 pg 435-52

Presentation :

“Language Teaching in Japan” a presentation to the Cambridge English Language Teachers Association Nov. 1986

3. 大学院教育学研究科修士論文

1987年3月卒業者 12名

A. 教育哲学

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 1. 影山 和子 | 成瀬仁蔵の教育思想—その「帰一」思想に於ける人間観— |
| 2. 河野 恒心 | パウロ・ティリッヒの神学における人間像とその教育論的考察 |
| 3. 金 会起 | 森有礼の教育思想に関する一考察 |
| 4. 大川 洋 | エラスムスの教育思想研究—「児童教育論」(1529年)を中心として— |

B. 視聴覚教育法

- | | |
|----------|--|
| 5. 西口 光一 | コンプリヘンション・アプローチによる授業設計の実証的研究—アメリカ人高校生に対する日本語教育への適用—(J) |
|----------|--|

C. 英語教育法

- | | |
|-----------|--|
| 6. 石井 透 | Licensing Conditions for Non-lexical Categories |
| 7. 久保田昭宏 | Floated Quantifiers and the Theory of Predication |
| 8. 望月 浩 | A Diachronic Study of English Modals |
| 9. 穴戸 通庸 | A Study of Preverbal Adverbs and Conjunctions in the Peterborough Chronicle |
| 10. 武内 信一 | Syntactico-Semantic Analysis of Old English Verbs of Saying—A Study of Semantic Change— |
| 11. 内田千賀子 | The Foreigner Talk in Japanese : With Special Reference to the Non-native Learners' Talk |

D. 理科教育法

- | | |
|-----------|--|
| 12. 西村 秀雄 | 理科教育における科学史の扱い—理科Ⅱにおける天動説と地動説を一つの例として— |
|-----------|--|

1987年6月卒業者 2名

A. 教育心理学

- | | |
|-----------|---|
| 1. 北畠あゆみ | 子どもの異文化適応及び復帰適応と母子から見た家族関係の変化との関連 |
| 2. 芹田ヴェルビ | The Cases of the Object in Finnish—Some Comparisons to English— |

4. 大学院教育学研究科博士論文

1987年6月授与

A. 教育心理学

- | | |
|-------|---|
| 新倉 涼子 | 向社会的行動の基礎としての乳幼児の対人行動—母親への愛情, 他児との関係, および共感性との関連から— |
|-------|---|

5. 教育実習報告

1. 教育実習報告

1986年度教育実習には100名の学生が参加した, その詳細は次のとおりである。

- | | |
|----------|------|
| 1) 実習生総数 | 100名 |
| 男子 | 26名 |
| 女子 | 74名 |

2) 実習日程及び実習校

- 5月12日～5月24日 総和高（茨城）
- 5月20日～6月7日 筑波大附高（茨城）
- 5月26日～6月7日 長野高（長野），小玉川中（山形）
- 6月2日～6月14日 武蔵野二中，世田谷緑丘中，立川六中，戸山高，目黒東山中，上野高，調布北高，八王子東高，東村山六中，八王子東高，日野三中（東京），八代高（長野），沼田女子高（群馬），平岡中（加古川），小樽潮陵高（北海道），玉川聖学院（東京），桐朋女子高（東京），山梨英和中（山梨），東芸大附大泉高（東京），成美学園女子高（神奈川），一ヶ尾高（神奈川），日川高（山梨），前橋鎌倉中（群馬），観音子一高（香川），成蹊高（東京），前橋高（群馬），腰越中（神奈川），柏高（千葉），栃木高（栃木），西遠女子学園（静岡），日高高（和歌山），千葉高（千葉），大田女子高，前橋女子高（群馬），繰山高（岡山），一宮興道高（愛知），八戸明治中（青森），横浜翠嵐（神奈川），梅光女学院（大阪），新島学園（群馬），城北高（東京），甲府東高（山梨），坂出高（香川），糸魚川高（新潟），城陽中（京都），神奈川横須賀高（神奈川）
- 6月9日～6月21日 八王子横川中，杉並神明中，三鷹一中，三鷹六中，大田園調布中，三鷹七中（東京），ICUHS，大磯中（神奈川），金城学院（愛知），愛知加谷北高（愛知），いわき豊間中（福島），大分大附中（大分），九州学院高（熊本），大船高（神奈川），鷗友学園女子高（東京），佼成学園高（東京），横須賀高（神奈川），ノートルダム清心中・高（広島）
- 6月11日～6月24日 日比谷高（東京），茨城キリスト教学園（茨城）
- 6月16日～6月28日 神奈川外語短大高（神奈川），川越女子高（埼玉），武蔵高（東京），加納高（岐阜）
- 6月23日～7月4日 横浜双葉中（神奈川）
- 9月1日～9月13日 東大教育学部附中・高校（東京），会津女子高（福島），奈良高（奈良），静岡高
- 9月2日～9月12日 活水高（長崎）
- 9月8日～9月22日 大田雪ヶ谷中（東京），沼津東高（静岡），榛原高（和歌山）

9月15日～9月27日 三鷹四中（東京）
 9月16日～9月27日 土佐高（高知）
 9月20日～10月3日 川越高（埼玉）
 9月22日～10月4日 小金井緑中（東京）
 10月6日～10月18日 青山学院高（東京）
 10月20日～11月1日 小金井南中（東京）
 11月4日～11月17日 東京学芸大附小金井中（東京）
 11月17日～11月29日 浦和西高（東京）
 1987年2月16～28日 駒場東邦中高（東京）

3) 実習参加学生学科別内訳

学科 \ 性別	男	女	計
人文科学科	3	7	10
社会科学科	3	8	11
理学科	6	4	10
語学科	6	36	42
教育学科	4	13	17
教育学研究科	0	4	4
行政学研究科	1	0	1
比較文化研究科	0	0	0
聴講生	3	2	5
合計	26	74	100

4) 実習生教科別内訳

教科 \ 性別	男	女	計
社会科学	3	7	10
理科	3	3	6
数学	3	1	4
英語	17	63	80
宗教	0	0	0
合計	26	74	100

2. 教員免許状取得状況報告

1987年3月卒業生401名（学部376名，大学院25名）の内，一括申請により教員免許状を取得した学生の詳細は次のとおりである。

1) 教養学部学科別教免取得学生数（聴講生は除く）

学 科	取得者実数	中学校一級	高校二級
人文科学科	10	9	10
社会科学科	7	4	7
理 学 科	10	6	10
語 学 科	34	28	34
教育学科	9	9	9
合 計	70	56	70

2) 教養学部教科別教免取得学生数（聴講生は除く）

種 別 教 科	社 会		理 科		数 学		英 語	
	中一	高二	中一	高二	中一	高二	中一	高二
人文科学科							9	10
社会科学科	2	4					2	3
理 学 科			2	6	4	4		
語 学 科							28	34
教育学科							9	9
合 計	2	4	2	6	4	4	48	56

3) 大学院教免取得学生数

教育学研究科	英語教育法	2
	理科教育法	1
行政学研究科		
比較文化研究科		
合 計		3

6. ひとのうごき

■ 新任・就任

- 鹿志村 和子副手 (非常勤)(心理学): 87年4月着任。
 小嶋 正敏副手 (非常勤)(心理学): 87年4月着任。
 井手 敦子副手 (非常勤)(心理学): 87年4月着任。
 乙竹 佐和副手 (非常勤)(心理学): 87年4月着任。
 須田 佐津紀副手 (非常勤)(心理学): 87年4月着任。
 斉藤 義也副手 (非常勤)(視聴覚教育): 87年4月着任。
 鈴木 美加副手 (非常勤)(視聴覚教育): 87年4月着任。
 阿久津 喜弘教授 (教育コミュニケーション学): 教養学部副部長(語学科担当) 1987年4月より1988年3月。
 原 一雄教授 (心理学): 一般教育主任 1987年4月より1989年3月。
 立川 明準教授 (教育史) 教養学部副部長 1987年4月より1989年3月。
 Randolph Thrasher 準教授 (英語学): 87年4月, 大学院教育学研究科, 英語教育, 準教授に就任。
 立川 明準教授 (教育史): 87年4月, 大学院教育学研究科, 教育哲学, 準教授に就任。
 栗山 容子助教授 (心理学): 87年4月, 大学院教育学研究科, 教育心理学, 助教授に就任。

■ 昇任

- 向井 敦子準講師 (心理学): 講師に昇任。87年4月。

■ 退任

- 高橋 詢大学院教授 (理科教育, 化学): 87年3月教育研究所員退任。
 三宅 彰教授 (理科教育, 物理学): 87年3月教育研究所員退任。
 Donald C. Worth 教授 (理科教育, 物理学): 87年3月教育研究所員退任。
 石川 光男教授 (理科教育, 物理学): 87年3月教育研究所員退任。
 勝見 允行教授 (理科教育, 生物学): 87年3月教育研究所員退任。
 山口 俊夫教授 (理科教育, 生物学): 87年3月教育研究所員退任。
 田坂 興亜準教授 (理科教育, 化学): 87年3月教育研究所員退任。
 吉岡 良昌副手 (非常勤)(教育哲学): 87年3月退任。
 堀野 緑副手 (非常勤)(心理学): 87年3月退任。
 巖 秀章副手 (非常勤)(心理学): 87年3月退任。
 鈴木 義也副手 (非常勤)(心理学): 87年6月退任。

井手 敦子副手 (非常勤)(心理学): 87年6月退任。
須田佐津紀副手 (非常勤)(心理学): 87年6月退任。
北條 礼子副手 (非常勤)(視聴覚教育): 87年6月退任。